

第2回 静岡市市民活動促進協議会 議事録

と き 平成19年8月3日(金) 13:00～15:00

ところ ふじのくにNPO活動センター

出席者 委員：(A班)磯谷委員、駒形委員、坂野委員、東山委員、日詰委員、八木委員
(B班)石野委員、大島委員、川島委員、木村委員、佐野委員、深澤委員
事務局：秋山参事、渡辺副主幹(B班書記)、宮城島主査(A班書記)、青木主事

議 事 (1)課題の共有について

ワークショップ「市民活動の課題」(ノミナル・グループ・プロセス)

(2)各種調査について

議事録 別紙 ノミナル・グループ・プロセス『市民活動の課題』 A、B班

A班、B班の2班に分かれて作成した模造紙の写しです。

項目横の太字の数字は、委員が関心の高い項目に投票した結果です。

詳しい作業内容は、別紙の進め方を参照してください。

第2回 静岡市市民活動促進協議会 ミナラル・グループ・プロセス『市民活動の課題』 A班

個人の参加促進

- 2 市民活動どころではない市民がほとんど。勤労者の視点が必要
- 3 市民活動に関心低い。無理解
一般市民に情報が十分に伝わっていない。ターゲットを絞り、情報を目に見える形で発信！
- 1 団塊世代のスキル、ノウハウを社会貢献に結びつけるインパクトのある手法
市民の共感を呼ぶ活動を作り出す力が不足
教育課程へのボランティア学習の導入(先生は対応し切れない?)。子どもを通じて親への波及効果。but、子ども会でPRしても役員が前向きでない

運営力向上の事例 ←

- 「くびき野NPOサポートセンター」上越
- ・ 会費収入400万円/年。企業会員が多く、恒常的資金になっている。
- ・ 上越タイムスをおやこ劇場に任せただころ、活性化し、うまく回り始めた。(過重労働・低賃金が問題)
- ・ 200万円ですべて委託を受け団体要覧を作成
- ・ 合併でできた地域自治体に多数の官製NPO。自立心なし。テコ入れ

市民活動の促進

- 日常の活動に必要なスタッフが不足(ボランティア、有給)
- 1 人材の育成(新規会員が集まらない)
活動してくれる会員少ない
- 2 専門知識、技術のある人材の育成、獲得
仕事、子育てなど終わった人の活用
- 1 NPO会計に習熟した人材の不足。スタッフ、税理士(やりたくない!)
- 活動場所の確保。ex. 予約の仕方、時期
- 1 様々な活動をコーディネートする中間支援の役割を担う人、団体が不足
- 1 ガバナンスの仕組みが各NPOで確立されていない
- 2 行政、社会からの支援不足。お金より気持ち「たかがボランティア」「わがまま」「ボランティアをやってるくせに」
情報提供の場の不足
- 4 NPOの運営力不足。資金(事業資金より運営資金。事業資金が増えても運営費がないと忙しくなるだけ。会費が重要)
- 2 行政のタテ割りにめげない、分野を超えた市民活動のネットワーク化
活動資金が不足(V連) 汗かいて穴埋め
NPO同士のネットワークづくり
- 1 まち全体(としてのシステム)がまちづくりの方向へ向いていない(市民、行政...)
情報発信のスキル、ノウハウがNPOにない

協働事業の推進

- 協働事業(ex. 環境)を具体的にどうすすめるのか。行政の方針が不明確
教育を協働で担おうという動きはあるが、個々の取組ばかりで、全体のコーディネートがない
- 2 NPO側に行政の制度や手続きの理解不足。溝を埋める努力
行政との相互理解する場の不足
- 3 行政の制度の不備(タテ割り、年度主義...)
- 4 まず、行政が市民を対等な目で見ること。下請け?

その他

- 行政、議会 etc に対する市民からのチェック機能(ex. オンブズマン)の確立
- FMしみずの効果は?
(FMHは不定期)
ex. 社交ダンス「女ばかり」と言ったら男性が参加してくれた
- 効果のあったPRは?
堅いイメージ「市民活動」「地域活動」はとっつきにくい
静岡新聞は効果あるが、それでも不足
ミニコミ誌やフリーペーパーなどもいいかも!

第2回 静岡市市民活動促進協議会 ミナラル・グループ・プロセス『市民活動の課題』 B班

個人の参加促進

- 1 市民活動への機会作り
イメージの改善・アピール
人材の発掘
- 2 無関心層への働きかけ
高齢者と男性の活動促進
地縁血縁が活動を阻害する
- 1 活動から得られる生きがいなどの明確化
参加できる環境作り

市民活動の促進

- 5 社会的使命の自己検証(役立っているかどうか)
- 1 タテ割り構造の打破
事務処理の簡略化
財源(自己財源確保)
- 4 子ども(学校)主体の地域改革(サービスラーニング)
- 1 経営能力の育成
持続可能な計画力
- 1 市民活動の広報力
情報収集提供の充実
行動検証の作成
- 1 NPOネットワークの輪が広がらない
市民活動センターのあり方
- 1 センターの運営について(指定管理のあり方)

協働事業の推進

- 活動を必要とする人と活動する人のマッチング
ミッションの掘り起こし。学生に仮想NPOをつくらせると、気がついていないテーマが多い。それらは誰も解決してくれないもの
- 1 官に対抗できる実力(自立力)の養成
声なき声を集める方法
- 1 行政と市民の協働はどこまで可能か
公務員の意識改革
NPOと言えるNPOとなる
- 1 行政と他組織との対等な関係
- 1 学校とNPO団体の協働が進まない
実績のあるNPOに協働が集中する
- 1 官製NPOと天下り問題
安あがりNO! コストより内容
- 1 批判力のあるNPO(官に対抗)
- 2 「見える化」(透明性)

その他

- 1 事故があった時の対策
認証基準の厳格化
税制措置(寄附など)の緩和
認定NPO法人の要件緩和
- 1 NPOへの市民の監視能力。総会のあり方など信用を高めるためのシステム作り
中間支援団体の育成(認証しっぱなしにしない)

事務局(行政)の感想(委員からの質問による)

- ・ NPOが自立、活動しようががんばっていることがわかってよかった。
- ・ すべての市民を「市民」とひとくくりにはできない

委員の意見

- ・ はじめての視点の気づきがあった。市民活動に関心が持てないくらいに生活に追われている人たちに目を向け活動する。例えば、DV、離婚などの女性の問題を解決するためには、講座など勉強よりシェルターが必要。
- ・ 活動しようとする人の家庭の理解が大事
- ・ 困らない人が困らない人のために活動するNPOはやめてほしい
- ・ 企業環境が厳しく、ボランティアどころではない
- ・ 子どもたちとの関わりが大事(大人の自己満足にならないように)。地域社会での枠組みづくりが必要 ex. 浜松Nポケット 居場所をつくること。関わること。待機児童をなくすこと - 子ども心の問題との関わりが大きい
- ・ 学校の先生の理解が大事 外部からの批判が大きく教師が構えてしまっている
- ・ 社会的課題をどうとらえるのか? 誰にどんな不満があるのか?
- ・ 今、行われている活動は自己実現系が多いのではないか?